小平市立鈴木小学校

令和４年度　授業改善推進プラン全体計画

【法的根拠】

日本国憲法　教育理念
教育基本法　教育の目的
学校教育法　学校教育の目的
学習指導要領　教育内容
小平市教育復興基本計画
教育目標

学校の教育目標

「よく考え　やさしく　元気な鈴木の子」

《よく考える子》○基礎・基本の習得とそれを活用する力を身に付け、根拠を明確に自分の考えをもち、判断し、行動できる子ども
《やさしい子》　○自他の生命を尊重し、自分も友達も大切にできる子ども
《元気な子》　○自己有用感を高め、心身ともに健康で粘り強くやり抜く子ども

【社会からの要請等】

保護者の要望
〔保護者アンケート等〕
地域社会の願い
〔学校評価アンケート等〕

各教科の指導の重点

○基礎・基本の習得とその活用をとおして、思考力、判断力、表現力をはぐくむ

・週２回の朝学習「鈴木タイム」（モジュール）では、国語の文字に関する基礎的・基本的な事項の定着を図る。
・算数は、３年生以上の習熟度別指導を実施し、学習支援員を積極的に活用し、個に応じた指導の充実を図る。月に一度の「ベーシックタイム」では東京ベーシック・ドリルを活用し、自己の課題を把握しながら、基礎学力の定着を図る。

○言語環境の整備と言語活動の充実に努め、言語に関する能力の育成を図る

・書く活動を日常的に取り入れ、書く能力を高める。
・毎週１回、朝読書の時間を設定し読書活動の充実を図る。
・学期に１回の読書旬間を設ける。また、目標をもって読書し、日常的に読書に親しむよう「読書ファイル・カード」の活用などを行う。
・場に応じた適切な言葉遣いができるようにするために、話型を具体的に提示する。
・国語辞典を常に傍らに置き、分からない言葉を調べ、語彙を増やしていく辞書引き学習の習慣を確立させる。

○学習環境を整備し、児童の学習習慣を確立する

・学校全体で、学習ルールの徹底を図る。併せて、教育環境を整備、充実させ、学習する環境を整える。
・児童に考え分かる喜びを実感させ、学ぶ意欲を育み家庭と連携を図りながら、学年×１０分の家庭学習の定着を進める。
・個の教育ニーズに合わせ教材や指導の工夫改善を行い、ユニバーサルデザインの考えに基づいた授業展開を全校で統一し、学習環境を整える。
・地域教育コーディネーターと連携し、地域の人材を活用した体験的な活動を通して、実感の伴う学習を実践する。

○生涯を通じて健康・安全で活力ある生活を送るための基礎を培う

・昨年度の体力テストの結果分析に基づく授業の改善・充実を図る。併せて健康に関する学習を実施する。
・マラソン旬間、ピョンピョン（なわとび）旬間を設定し、体力向上に向けた全校的な取り組みを充実させる。
・学級ごとに体力向上に向けた一実践を設定し、積極的に取り組む。
・休み時間を利用して委員会提案の多様な運動の取組を実践する。

学校の教育目標を達成するための基本方針

【確かな学力の向上】

○自ら考え学び続ける子の育成
○「鈴木タイム」（モジュール）の充実
○根拠を明確にして考えを伝え合う
○読書の習慣化
○学習環境の整備と言語活動の充実
○「学び方を学ぶ」授業実践
○校内研究主題
「主体的に考え、互いに学び合う児童の育成　～『わかる喜び』『学ぶ楽しさ』を味わう算数科学習の在り方～」

【豊かな心の育成】

○人権尊重、生命尊重の精神を培う教育の推進
○いじめ防止授業の実施
○認め合い協力し合う心の醸成

【健やかな体の育成】

○体力向上を高める授業改善
○オリンピック・パラリンピック教育の推進
○食育の推進
○全校一斉の体力向上の推進

【自立心の育成】

○児童発案の活動の推進
○異学年異学級交流（たてわり班活動）の充実
○自ら考え命を守る能力の育成
○特別支援教育の視点に立った教育環境整備

【郷土を愛する心の育成】

○保護者・地域の人材の積極的な活用と連携
○あおぞら福祉センター・子ども家庭支援センター等の連携
○青少対・保教の会等、学校支援組織の活動の積極的参加
○近隣幼稚園・保育園との交流

【令和３年度学力・学習状況調査等の分析】

国語

○全体の正答率は、６９％で全国平均よりも高い。「知識・技能」は１．５％下回り、特に言葉の特徴や使い方に関する事項に課題が見られる。
○話合いや学び合いの場を多く設定し、言葉の違いによる感じ方の違いに着目する学習を通して、語彙を増やし、言語感覚を豊かにしていく。また例を示しながら、どのように書くと相手に伝わりやすい文章になるのかを考えさせながら取り組む。
○漢字練習と漢字テストの間違い直しと復習を習慣化させながら、漢字で表現するよさや日常的に使うよさに気付かせる。

算数

○全体の正答率は、７６％で全国平均よりも高く、特に「A 数と計算」「B 図形」に関する領域は全国よりも約１０％高い結果であり、基本的な学力の定着が見られる。
○「C 測定」と「D データの活用」の領域は、全国平均よりも上回っているものの東京都平均よりもやや下回った。
○身近なものの測定活動を多く取り入れ、量の感覚を豊かにするとともに、測定したものから学習課題を設定し課題解決を図っていく。また、目的に応じた単位で量の大きさを的確に表現する力を高めていく。
○目的に応じてデータ収集や分析する等、日常生活に生かす活用型の問題解決学習を行い、統計的な問題解決のよさに気付かせていく。

道徳教育の指導の重点

○自己理解を深め、集団の一員としての自覚をもちよりよい人間関係づくりをしようとする態度を育てる。
○自他の生命の尊厳さを感じ取り、生命あるすべてのものをかけがえのないものとして大切にしようとする心を育てる。

外国語活動の指導の重点

○外国語を通して、言語や文化について理解を深めるとともに積極的にコミュニケーションを図る素地となる資質･能力を育成する。

総合的な学習の時間

○探究的な見方・考え方を働かせ、よりよく課題を解決し、自己の生き方を考えていくための資質や能力を育成する。
○探究的な学習に主体的・協働的に取り組むとともに、互いのよさを生かしながら、積極的に社会に参画しようとする態度を養う。

特別活動の指導の重点

○学級活動・委員会・クラブ活動における勤労・奉仕的な活動を通して自主的・主体的な姿勢を育てる。
○異学年交流等の集団活動を通してよりよい学校を築こうとする実践的態度を育成する。
○遊びの活動を工夫して、友達と関わることの楽しさを味わわせる。

生活指導の重点

○学校全体で新しい生活様式を徹底し、基本的生活習慣の定着と、児童の規範意識を育てる。
○あいさつ運動等を実施し､場に応じたあいさつや適切な言葉遣いができる力を身に付けさせ、自他を大切にする態度を養う。
○児童理解・問題把握に努め、いじめや不登校等の課題を具体的に検討する児童のサポート体制を構築し解決を図る。
○相手の立場や気持ちを考え、共助活動を重視し、「心の東京革命」の趣旨を活かした社会貢献活動の心を育成する。
○「情報モラル教室」「薬物乱用防止教室」「セーフティ教室」や「地域安全マップづくり」を実施し、児童に危険回避能力を身に付けさせるとともに、自らの生命を大切にする心や他者の生命も尊重しようとする態度を育成する。
○「防災教室」「防災ノートを活用した安全指導」など、大地震等の災害に備えた防災教育を進め、自分で判断・行動できる力と共に助け合う心を育成する。

進路指導の重点

○幼・保・小・中連携を図りながら、児童の発達段階に応じた望ましい勤労観・職業観を育む。
○教育活動の様々な場面において､児童が自己有用感を高め､将来の生き方や生活について前向きに考え、行動する態度を養う。

本校の授業改善に向けた視点

指導内容・指導方法の工夫	教育課程編成上の工夫 教育環境の整備	校内における研究 研修の工夫	評価活動の工夫	家庭や地域社会との連携
○課題解決型の学習を行い、根拠を明確にして考えを伝え合う話合い活動を通して主体的に考えを深め解決する力を育成する。 ○言語活動を積極的に取り入れ、絵日記・意見文など日常的に書く活動を実践する。	○鈴木タイム（朝のモジュール学習）の回数を増やし言語の基礎学力を高める。 ○校内掲示計画を明確にし、校内研究・道徳・委員会・クラブ・たてわり活動等が全校で共有できる環境整備を進める。	○校内研究検証として算数科の研究授業を年間６回実践する。 ○研究夕会を毎週１回実施する。 ○授業改善にかかわる OJT 研修を月１回実施する。 ○アンケートを実施し実態把握をする。	○評価規準（Ａ規準、Ｂ規準）を明確にし、授業観察、ノート記述、振り返りカード等を活用して評価を行う。 ○学年やブロック・専科で評価内容の詳細を検討し、共通理解の上で評価する。	○家庭学習（学年×１０分）の定着を図る。 ○地域教育コーディネーター等の人材を活用する。事前打ち合わせを実施し児童の興味・関心を高め、課題解決や探究活動の充実を図る。